2014. 4.20　　日本基督教団 阿佐ヶ谷教会 図書委員会

☆☆図書室だより☆☆　☆第15号☆

☆☆ー 図書委員会よりお知らせ ー☆☆

2014年 3月(後期)～2014年 4月(前期)　新規登録の書籍をご案内します

書 名(購入書)	著者名など	出版社	分類シール
「紙上の教会」と日本近代 無教会キリスト教の歴史社会学	赤江達也 著	岩波書店	〔茶 198.992 A 〕
キリシタン黒田官兵衛　下巻	雑賀信行 著	雑賀編集工房	〔黒 289.1 Sa 2 〕
『ふしぎなキリスト教』と対話する	カトリック司祭 来住(きし)英俊 著	春秋社	〔赤 190 Ki 〕
書 名(ご寄贈書)	**著者名など**	**出版社**	**分類シール**
サンガイ ジウナコ ラギ　みんなで生きるために	岩村史子 篠浦千史 文 金斗鉉 絵 ディヨ三木 ネパール語訳	ディヨ伊予	〔黒 726.5 I 〕
宗教文化論の地平 日本社会に置けるキリスト教の可能性	土屋 博 著	北海道大学出版会	〔赤 192.1 Tsu 〕
生き方としてのキリスト教	金井 創 著	日本基督教団出版局	〔赤 190.4 Ka 〕

ご紹介…　　大村 栄　主任牧師より

『 阿佐ヶ谷教会九十周年記念誌　神と人とに仕えて』 2014年2月9日発行

2012年1月に最初の編集委員会が発足して最初にしたのは、「この10年」の阿佐ヶ谷教会の歩みを振り返ることでした。委員たちが思いつくままに「この10年」のトピックスを挙げていったのは、楽しい時でした。例えばこんなことが挙げられました。

週報の教会内印刷、聖餐式で恵みの座の活用、標語の歌の充実、礼拝前のアナウンス、青年の活躍（アドベント音楽礼拝・青年夕礼拝)、阿佐谷東教会との交わり、組会の再編成、２度の全体修養会、ＩＴ化の推進（ＨＰ・ＭＬ)、教区教団への関わり（大村の教区議長、教団常議員)、ＡＥＤ設置、ＬＥＤ電球、対外関係（イーストアジア２１・セムナン教会・アジア学院)、地域との関わり（親子の広場・子供の心相談室・ジャズストリート)、東日本大震災支援（ボランティア、部会ごとの各種販売)。これらをもとにして「この10年」の歩みを書いたのです。

ひとつひとつの事柄が皆さんの祈りと協力に支えられ、主のお守りの中で行われたことを思い返します。「これからの１０年」、そして「100周年」に向けて、新しいトピックスを数え始めましょう。

創立90周年記念全体修養会にむけて 図書委員会よりおすすめの一冊　**今日の一冊**

『生き方としてのキリスト教』 金井 創　日本基督教団出版局（1999）分類: 190.4.

全体修養会のテーマである「キリスト者のつとめ」とはなんでしょうか？ひとそれぞれ、想うところはあると思います。図書委員会では修養会の準備として、参考図書の選書作業をはじめます。まず、今月は金井創の『生き方としてのキリスト教』をとりあげます。

キリスト教の入門書ですが、要点が整理され、たいへんわかり易い文体は、著者の優しさが感じられます。自然と聖書の言葉をわが身において考えさせられる本です。ひとの「生き方」としてのキリスト教信仰をとらえ、聖書に提示されたものを解き明かすことが本書の目的であると序文にありますが、修養会準備のはじめの一冊としていかがでしょうか？（ M.I. ）

○○○○　復活祭に想う「心は燃えている」か？

現代説教選14　『エマオ途上の旅人』　大村 勇 著

新教出版社　昭和21(1946)年刊　分類：緑 194 Oh

復活祭は私にはとても重い。連れ合いは7年にわたる度重なる手術の後、2004年5月天に召された。前年末の聖夜讃美礼拝からは教会に行けなかった。2004年4月の復活祭礼拝が彼女の最後の教会だった。「復活したい」と友に言っていた。召されたのはその1月後だった。
さて、昨年召された阿佐ヶ谷教会出身の大木英二牧師の貴重な蔵書をご家族が多数教会に寄贈してくださっている。その中にこの本、18ページの小冊子がある。昭和21年4月28日の大村勇先生の復活節後第１聖日の説教録だ。日本の復活への想いが力強く見える。前年5月の山の手大空襲の劫火をかろうじて免れ、戦争で多くの信徒を失った後の初めての復活節だった。エマオに向かうクレオパら二人は途中からの同道者をイエスと気付かなかった。名の記されていない「もう一人」は我々一人一人だと先生はおっしゃる。そして聖霊はいつも付き添っていると。しかし、私は今も復活のイエスに気付かない「エマオ途上の旅人」である。（M.N.）

教会暦による説教集 第２巻　『キリストの復活　レントからイースターへ』

山本祐二 編　キリスト新聞社　分類：緑 198.34 Ya

この本は「教会暦の主要な期節に宣教の現場で働く人によって語られたメッセージを通して、福音の豊かさとリアリティを共に分かち合うことを願って編まれたもの」と、刊行のことばにあります。
私は信徒の一人として、聖日に礼拝を捧げ、使徒信条を唱えます。しかし、その唱えている言葉は心からのものか、単に字を追っているだけかは、神様がご存じです。
この説教集は、二十名の教職がそれぞれの思いを記されたもので、一つ一つを注意深く読み進む時、心に深く迫ってくるものがありました。
若い時にイエス・キリストを信じ、生きてきました。主はこの私のために身代わりとなり十字架で死んでくださった。そしてよみがえり、天に昇られた。それらの事柄を知識のみではなく、心より「アーメン」と言えるかを、改めて自らに問う思いでいます。今年のレントとイースターを、この説教集から得た神への感謝と喜びをかみしめながら迎えたいと思っています。（SO）

☆☆　当教会の 大村 栄 主任牧師の説教も入っています。

『サンガイ ジウナコ ラギ　みんなで生きるために』

岩村史子　篠浦千史 文　金斗鉉 絵　ディヨ三木 ネパール語訳　分類：黒 726.5 I

ネパールで医療活動をした岩村昇氏のエピソードを絵本にしたものです。病気の老婆を背負い山や谷をいくつも越え、三日かけて病院まで運んでくれた若者に、岩村医師が三日分のお金を差し出すが、若者は受け取らず、「三日分だけぼくの元気をおばあさんに分けました。おばあさんを運んだことで徳を積むことができ感謝します。サンガイジウナコラギ（みんなで生きるためだよ）。」と言い帰って行ったとのこと。若者の足は裸足で服も破れていて、このお金があれば新しい靴や服が買えたのに。岩村医師は若者から大きな幸せをもらったと思いました。
私たちはこういう幸せを失っていないでしょうか。現代の子ども達は、この幸せの意味がわかるでしょうか。一冊の絵本から色々なことを考えさせられました。（YM）